

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
希望あふれる未来を自ら拓く力を育むための教育課程の編成	・自ら問題を見いだしたり学ぶ必然を実感したりすることができるよう、「自分から」をキーワードに、児童が主語となる授業改善を行う。 ・「小規模校つなげるプロジェクト」を活かして市内中心部の学校や他市町村の学校とも積極的につながり、多様な価値観に触れられるようにする。	A	・自ら問題を見いだしたり、学ぶ必然を実感したりすることができるように授業改善に取り組み、授業での学びを活かした主体的な活動を企画・運営する姿が見られるようになった。 ・小規模校の交流では、縦割りで活動することで、さらに多くの児童とつながることができた。 ・英語を専門とする教師が英語科を担当し、段階的に話す・書く力を付けた。英語に関する保護者評価が7ポイントアップした。	・先生たちがここにこした表情で授業をしており、子どもたちは仲間と協力しながら学んでいる様子が伝わってきた。 ・子どもたちの様子や掲示物(俳句や新聞)などから、発想力の豊かさ、心の豊かさを感じられた。 ・他校との関わりが広がる学校経営は、子どもたちにとって大きな刺激となっている。	・子どもたちが自ら考え、判断し、行動できるような場面設定をし、児童が主語になる授業改善をさらに進めていく。 ・家庭や地域と連携し、人と人の関わりを多くもてるような教育を進める。 ・児童が自ら見つけた課題をもとに、市内外の学校とつながり、互いの地域のよさを交流したり、多様な価値観に触れたりすることができるようにしていく。
コミュニティ・スクールの機能の充実と岐阜市型小中一貫教育の推進	・地域人材を最大限に生かし、ふるさと学習、農業体験学習を充実させる。 ・地域やPTAと連携し、児童の夢や希望を育む学習活動を充実させる。(お仕事探検隊) ・幼保小中が連携し、互いに授業を参照したり、研究会に参加したりして、校種間の理解を深める。	A	・地域ボランティアの協力により、充実したふるさと学習、農業学習を行うことができ、ふるさとに対する思いを深めることができた。 ・幼保連携協議会を開催し、1年生や新入児について情報共有を図ることができた。また、1年生が生活科で学んだことを活かして年長児を「おもちゃランド」に招待し、幼保小の連携を深めることができた。	・家庭教育、地域教育、学校教育の連携と深化をさらに進めていきたい。 ・子どもたちが、自分たちが生活する地域のことを学び、考えていくことはとても大切である。今後ふるさと学習を続け、ふるさとを大切に子どもを育ててほしい。 ・子どもたちの俳句から、自然や地域に対する子どもたちの思いが感じられた。人も環境も素晴らしい地域である。	・隣接する保育所に校庭を開放し、小学校の子どもたちと保育所の子どもたちが日常的に関わることができる場をつくる。また、命を守る訓練を合同で実施し、災害時に助け合えるようにしておく。 ・小中連携事業の一つである「あいさつタッチ」に、三輪北小の卒業生が参加できるように、三輪中学校と連携し進めていく。
あたたかさで働きがいにあふれる学校づくり	・教職員一人一人の強みを生かした研修を実施したり、互いに授業を見合ったりして自主研修に励むとともに、教職員のコミュニケーションの活性化を図る。 ・心身ともに健康で児童と向き合えるように、会議の持ち方や授業時数を見直して放課後の時間を確保する。	A	・日頃から、専門教科の教員に分からないことなどを質問したり、授業の工夫などについて教え合ったりして、授業力の向上に努めることができた。 ・夏休みに、教員の専門や得意を活かした研修を実施して互いに学び合い、夏休み後の授業に活かすことができた。	・先生方の個性が発揮できるような体制を整えて児童全体の指導に当たっていただいていることに感謝する。 ・先生方が穏やかで、楽しそうに授業をしていた。職員関係のよさが伝わってきた。 ・保護者アンケートには辛辣なことを書いている方もいたが、地域の子を守ってほしいよう、少人数のよさを生かして保護者や地域も協力していきたい。	・引き続き、各教員の専門(得意)を生かした研修を位置付けるだけでなく、日ごろから互いの授業を見合う場を設け、授業力の向上と気軽に聞き合える関係作りをしていく。 ・年度初めに、教科に応じた安全指導や道具の使い方などの研修を行い、全職員が安心して指導に当たれるようにする。
子どもたちが安心して学べる学校づくり	・「命について考える日」と「未来について考える日」を設け、自分で自分の命を守り、未来への希望を抱く教育を行う。 ・体育の学習を学年部で行ったり、教科の専門性を生かした授業交換をしたりするなど、全職員で児童に関わり、寄り添っていく。(学校担任制)	A	・「未来について考える日」に、保護者、児童と年齢の近い社会人、教員など、いろいろな立場の大人から、働くことの意味や生き方についての話を聞き、自分の将来について前向きに考えることができた。 ・学年部体育や担任交代による読み聞かせなどを実施し、全職員で児童に関わることで、安心感を生み出すことができた。	・子ども同士が関わり合う場や、子どもに任せる場を作るなどの工夫をたくさんしていた。感謝している。 ・参観時に、先生方と子どもたちとの関わりを見て、子どもたちが安心して学んでいる様子が伝わってきた。来年度、保育所から入学するのは1人だが、心配ないと感じた。	・「命について考える日」「未来について考える日」を継続し、様々な人との出会いや経験を通して、生命の尊厳や未来への礎となる力をつける。 ・来年度は、体育に加え、1、2年の英語も学年部で実施していく。水泳の授業は水の事故、熱中症の危険があるため、より安全に学習できるよう全校で実施する。
災害、事故に対する安全性の確保	・災害時の対応の見直しを図り、様々な場面においての職員や児童の動きについて確認できるようにする。 ・いじめ事案や生徒指導事案があったときには、すぐに管理職と関係職員が情報を共有し、組織で対応する。	A	・命を守る訓練の最終回について、教職員にも児童にも予告をせず、昼休みに地震発生し、放送機器が使えない状況を設定し、すべて自分で考えて行動するような方法で実施した。自分で危険を予測して命を守る行動できるように、うまくいかなかった部分については、すぐにやり直しをし、確認することができた。	・子どもたちの無事故が続いていることが当たり前ではなく、日頃の積み重ねである。日頃から「自分の命は自分で守る」という構えを子ども自身に体得させていただいている賜物である。 ・今年度は重大ないじめ案件はなかったようだが、小さいもの、見づらいものも見逃さないようアンテナを高くしてほしい。	・予告なしの命を守る訓練により、教師も児童も自分で考え、判断し行動できるようにしてきたが、近くに頼る人がいない時や一人の時にも自分で命を守る行動ができるようにするために、来年度は、休み時間に予告なしで実施したり、登下校時を想定したシミュレーション訓練を実施したりしていく。
教育環境と学校財務環境の整備及び効果的な活用	・校内の整理整頓を進めることで個人情報や物品の管理を徹底するとともに、備品や消耗品の適切な購入につなげる。 ・事務職員の学校運営への参画を継続し、適切な納入金管理や教材購入を行う。	A	・校舎内の整理整頓だけでなく、校庭の樹木を剪定したり、敷地内に横断歩道や停止線を書いたりすることで、より安全な環境をつくることができた。 ・「事務の日」に、事務職員から児童に向けて、消耗品や備品についての話をすることで、児童の中に、ものを大切にすることや感謝の気持ちが育ってきた。	・広い校地(特に芝生)の管理に尽力いただき感謝している。予算が限られた中でやっていただいているので、できる限り地域やPTAも協力していきたい。 ・芝や樹木の管理はよくいただいているが、危険な遊具が撤去されないままになっている。早急に撤去し、子どもたちのために、新しい遊具の設置をしてほしい。	・「事務の日」の取り組みに加え、物を大切にすることが人々を大切にすることにつながる指導をし、児童自らが自分のものを大切にすることができるようにする。 ・校地内外の整備に携わる地域の人の紹介をすることを通して、物を大切にすることや感謝の気持ちを育てていく。